



～国際交流の巻～

自治体発・海外自治体幹部 交流協力セミナー ～百済文化と世界遺産、交流の架け橋～

奈良県橿原市企画政策課

はじめに

橿原市は、日本最初の都城である藤原宮跡を有しており、藤原京時代には日本の国家としての体制が整えられていました。その藤原京をはじめとする遺産群で構成される「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」は世界遺産暫定登録リストに登録され（明日香村・桜井市・奈良県と連携）、橿原市では、本登録に向けてさまざまな活動を展開しています。2011年4月には橿原市の中心駅・近鉄大和八木駅前に橿原市観光交流センターをオープンしました。同センターでは、橿原市はもとより奈良の観光の拠点施設となるための事業を展開し、これからの観光事業に大きな期待を集めています。しかし、これまでのところ橿原市を訪れる観光客は、日本国内旅行客が大部分を占めており、関西国際空港から高速バスで70分という至便の地にあ



藤原京再現CG

りながら外国人観光客の訪問はまだまだ少ないのが現状です。本市近隣には明日香村、桜井市など、同じく日

本の古代史にまつわる歴史遺産が点在しており、単一自治体を越えての連携した取り組みを行うことにより、外客誘致を目指したいと考えています。

交流セミナーを通じた韓国・日本文化の紹介

今回、韓国、忠清南道をはじめ公州市、瑞山市、広州市からの自治体幹部を招聘し、お互いの文化意識について交流を行いました。目覚ましい発展を続ける韓国における日本と共通した百済文化の継承について、それぞれの自治体における実情をご紹介いただき、ともに世界遺産登録に向けた取り組みについての意見交換がありました。

まず韓国百済の世界遺産暫定リスト登録について、それぞれの歴史遺産の紹介があった後、課題としては、市民の関心と登録を目指す実践的な行動が必要であり、住民の後押しや政治力も必要という意見が示されました。日本側からも世界遺産登録推進と観光の両面からの取り組みをご紹介し、今後お互いが百済文化をキーワードに登録に向けた交流が図れることを確認しました。

滞在期間中、国指定による重要伝統的建造物群保存地区「今井町」、考古学研究所の権威である橿原考古学研究所、日本で最初に条里制が引かれた藤原宮跡、百済文化と縁の深い飛鳥、奈良県の世界遺産である東大寺大仏殿や平城京跡、法隆寺等の視察を行いました。



重要伝統的建造物群保存地区「今井町」

橿原市の概要（2012年2月1日現在）

市制施行 1956年2月11日
国内姉妹都市 宮崎県宮崎市（1966年2月～）
海外友好都市 中華人民共和国河南省洛陽市（2006年2月～）
人口 125,433人
世帯数 50,576世帯
面積 39.52km²

檀原市の国際的都市間交流の方向性 歴史的経緯と檀原市との関係

わが国で初めて本格的な都が飛鳥・藤原の地に築かれた時代に、日本を含めた東アジア諸国は、中国を中心とした東アジア文化圏と呼ばれる世界を形成し、そこでは、人・文化・技術・思想の豊かな交流がありました。日本列島、朝鮮半島、ベトナム地域は、漢字というメディアを共有し、それを媒介にして律令、仏教、儒教といった中国に起源する文化を受容しました。これにより中国を含めたこの地域に形成されたのが東アジア文化圏です。この中でわが国は、遣隋使・遣唐使、遣新羅使を派遣し、朝鮮半島から、僧、技術者等を積極的に招来し、律令という政治制度の導入や世界宗教であった仏教の受容など、さまざまな思想・文化・技術を摂取し自己のものとして発展させました。古代東アジアが一つの文化圏にあったグ



活発な意見交換が行われた

ローバルな世界の中で、わが国は天皇を中心とした中央集権国家を形成し、自らの国を「日本」と呼ぶようになりました。こうして日本が統一国家としての体裁を整えていく過程においては、朝鮮半島諸国、中でも百済国の果たした役割には非常に重要なものがあります。仏教伝来から藤原京遷都までの飛鳥時代は、両国の関係が特に緊密であり、百済の王子・余豊璋が飛鳥に滞在し、百済滅亡後、齊明天皇は王子を朝鮮半島に送り返すとともに百済復興のための軍隊をはるか海を越えて白村江にまで送られました。その百済の都があったところが現在の公州市であり、上述のように歴史的に檀原市と関係が深いことは、参加者の方々が奈良県内施設を視察された際、例えばそこに展示されていた出土品が「公州市で見ると全く同じだ」とおっしゃっていたことから伺い知ることができました。また、公州市とは、現在百済王国の古遺跡群の世界遺産

登録を目指していることでも共通点があります。

檀原市では、国際交流を推進するためには、相互理解が不可欠であり、長い年月を要する中で民間の交流が次々と生まれ、企業間交流、個人のつながりの中で各々の分野で吸収できる技術や地場産業の創出といったアイデアが生まれてくる可能性が秘められていると感じています。こうした可能性をより確かなものにするために、このたびのクレアの支援のもと、「自治体発・海外自治体幹部交流協力セミナー」を通じて、檀原市が得たものは大きく、今後の国際交流発展の礎となったと考えています。

おわりに

奈良県では、2010年に開催された平城遷都1300年祭を機に広く東アジア諸国と交流をするための「東アジア地方政府会合」が毎年開催されています。この会議には、中国、韓国をはじめとした6か国45地方政府が参加し、交流を深めています。そこで檀原市としては、このたびのセミナーをきっかけに交流が始まった韓国各地方政府に対し、東アジア地方政府会合への参画を呼び掛けていきたいと考えています。クレアの支援のもと実施させていただいた海外自治体幹部交流協力セミナーでは、一つの自治体が他市町村と連携し、枠を越えた交流をすることが非常に難しい中、国際交流や異文化交流については、そうした固定概念を取り払うことが、交流の第一歩になるということと同セミナーを通じて実感させていただき、クレアが持つ幅広い連携体制のもと今回の交流が成功したと考えています。

今後、檀原市が韓国と文化・歴史・教育・人・遺産を通じてグローバルな交流を推進するにあたり、外国の方だから感じる事ができる日本、外国の方から学ぶ日本、さまざまな目線を通じて認識できる国際交流を檀原市は今後も進めていきます。



特別史跡・藤原宮跡を熱心に視察